

授業科目名 科目コード	住環境福祉論 2(Housing Environment for Elderly and Disabled People 2) 392102-14400					担当教員	米 山 宗 久 (ヨネヤマ ムネヒサ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL/資格対応科目								

① 授業のねらい・概要									
<p>高齢者・障がい者を取り巻く社会状況と住環境、自立支援のあり方、疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境整備の考え方や進め方、さらに環境整備の基本技術と実践的知識、また在宅生活における福祉用具の必要性を習得することを目的とする。また、福祉住環境コーディネーター2級資格相当の知識を身につけ検定試験合格を目標とする。</p> <p>福祉住環境コーディネーターの基礎知識として各専門職が行っている職種内容を理解することと、連携の必要性について学ぶ。福祉住環境コーディネーター2級資格に対応した科目である。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
教科書に基づき、追加的事項を補足しながら授業を進める。小テストを実施して、フィードバックを行う。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
住環境福祉論1を履修していることが望ましい。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 高齢者や障がい者を取り巻く社会と福祉住環境コーディネーターを理解する。</p> <p>(ii) 障害のとらえ方と自立支援を理解する。</p> <p>(iii) 疾患別・障害別にみた不便・不自由と相談援助を理解する。</p> <p>(iv) 福祉住環境整備の基本技術を理解する。</p> <p>(v) 在宅生活における福祉用具の活用を理解する。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
東京商工会議所(2019)『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト改訂5版』東京商工会議所									
⑦ 参考図書・指定図書									
授業において紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	50%						100%
(i) 高齢者や障がい者を取り巻く社会と福祉住環境コーディネーターを理解する	10%	10%						20%
(ii) 障害のとらえ方と自立支援を理解する	10%	10%						20%
(iii) 疾患別・障害別にみた不便・不自由と相談援助を理解する	10%	10%						20%
(iv) 福祉住環境整備の基本技術を理解する	10%	10%						20%
(v) 在宅生活における福祉用具の活用を理解する	10%	10%						20%
フィードバックの方法	小テストは解説を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
テキストは関連科目のテキストとしても使用する。必ず購入の上、毎回の授業に持参すること。福祉住環境コーディネーター2級検定試験を受験することを基本とする。授業外での学修が少ない傾向にあるため、次回の授業範囲を告知し、事前に範囲内を読んでもらうように指導するとともに、授業時に重要な項目を説明してもらう。住環境整備の企業に就労する場合は資格取得することを推奨する。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション	テキスト	暮らしやすい生活環境を考察する	30分
2	高齢者を取り巻く社会状況と住環境	テキスト	高齢者を取り巻く社会状況を理解	60分
3	障がい者を取り巻く社会状況と住環境	テキスト	障がい者を取り巻く社会状況を理解	60分
4	福祉住環境コーディネーターの役割と障害のとらえ方	テキスト	福祉住環境コーディネーターの役割を理解	60分
5	高齢者・障がい者の心身の特性	テキスト	障害のとらえ方と自立支援を理解	60分

6	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備	テキスト	高齢者に多い疾患の特徴を理解	60分
7	障害別にみた福祉住環境整備	テキスト	障害種別の特徴を理解	60分
8	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方(1)	テキスト	ケアマネジメントと福祉住環境整備を理解	60分
9	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方(2)	テキスト	福祉関連整備専門職を理解	60分
10	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	テキスト	福祉住環境整備の基本技術を理解	60分
11	生活行為別福祉住環境整備の手法(1)	テキスト	外出・屋内移動・排泄の整備を理解	60分
12	生活行為別福祉住環境整備の手法(2)	テキスト	入浴・洗面・調理の整備を理解	60分
13	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識	テキスト	建築図面のルールを理解する	60分
14	在宅生活における福祉用具の活用(1)	テキスト	福祉用具の意味と適用を理解	60分
15	在宅生活における福祉用具の活用(2)	テキスト	生活行為別にみた福祉用具の活用を理解	60分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。小テストを行い、学修の理解状況を把握する。小テストは採点后、解説の時間を設ける。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。

実務経験と授業科目との関連性

社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、人間が住み続けることには、住環境を整備することでより快適により安全に生活できることを学生に伝えることができる。

たとえば、普段使っているシャンプー・リンス・ボディソープの容器を選別すること、そこには障害のある人もない人も通常使えるバリアフリーデザインなどの必要性を伝えることができる。さらに実体験として普段から見慣れている社会環境にも目を向ける必要性も伝えることができる。

また、高齢者保健福祉計画や障害者副計画においても、介護の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。